



プログラム担当者からのメッセージ

世界を変え、未来を創る。

— 國吉康夫教授 (GCL プログラムコーディネーター)

社会を変えるための素養を。

— 萩谷昌己教授 (GCL プログラムサブコーディネーター)

人を知り、社会を知る。

— 浅見徹教授 (プロジェクトインキュベーション機構長)



世界を変え、未来を創る。

國吉康夫教授（プログラムコーディネーター）インタビュー

ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）設立の背景には、日本の危機的な状況があります。なぜ日本の電機メーカーはiPhoneを作れなかったのか、なぜ原発事故で先陣を切ったのは日本のロボットではなかったのか、なぜ日本の行政はITによって効率化されないのか——。それは、全体のプランニングができる人材を育ててこなかったから。今までの文系・理系といった区切り方ではなく、両方を深く理解し、包括的に課題に取り組むことができる人材を育てることがGCLの目的です。

このような人材を、どう教育すれば良いのでしょうか？ GCLでは、「ソーシャルICT」をコンセプトに掲げています。これには2つの軸があって、1つは、社会全体を情報でつながりあったシステムとして捉えること、もう1つは、経済・制度・政策といった、人々の行動を考える方法を理解することです。この2つをセットで考えなければ、全体のデザインはできません。これを踏まえ、社会の具体的な課題に取り組むプロジェクトもカリキュラムに取り入れています。チームでの作業で互いを補い、また実際に社会を動かしている人々との協働を通じて広い視野を得てもらいたいと考えています。

第1期生がコースに参加し、もうすぐ1年が経ちます。1年次は助走期間で、これからが本番。2年次からは、インターンシップなど実際に社会に出る活動をしていてもらいます。現時点でも、自主的に動いて活動を引っ張っていく学生達が出てきたことに手応えを感じています。GCLの計画当初から、トップダウンで人材育成をすることには限界があり、学生が主導でプログラムを作っていくのが理想だと考えていたからです。もちろん、GCLには多くのリソースがあり、学生が自分たちでプログラムを作っていくようになるまでの支援は惜しみません。

東大で、従来の専攻で普通にやっていたら普通に良い進路があるわけで、GCLのような何が起るかわからないものを敬遠するのは、当然の心理だと思います。特に理系の学生は、修士まで出て、企業に入って、研究開発部門で製品を作れば良い、というような考えをしている人が多いように思いますが、そのシナリオは今でも成り立つのでしょうか？ 国民から大きな投資を受け、また期待を掛けられている東大生に、「このぐらいでいい」という考え方はしてほしくないのです。グローバル化が進み大きく変動する時代において、これからどう生きるか、考えてほしいと思います。

（聞き手：金子和正、森友亮 撮影：須原宜史）



社会を変えるための素養を。

萩谷昌己教授インタビュー

ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）のカリキュラムは、GCLの3つの柱である「高度専門力」「社会先導力」「価値創造力」を身につけるための基盤を形作るために設計されています。特徴として挙げられるのは、演習やワークショップなどの実践的な講義が多く含まれることに加え、しっかりとした基礎的な素養を身に付ける「横串」の講義群が揃っていることです。理系の学生には文系の素養を、文系の学生には理系の素養を身に付けるための講義が用意されています。

基礎的な横串の講義を修士の間に履修してもらい、素養を身につけた後は、博士課程で社会イノベーションプロジェクトを実践し、成果を論文にまとめてもらうことになります。学術的に素晴らしい研究成果は、社会にイノベーションをもたらすものであり、その実現に向けたプロジェクトを期待しています。

いかにリーダーシップを発揮し、どう社会を変えていくか。GCLコース生には、ぜひこういったことを考えてほしいと思っていますし、先日のプレゼンコンペでもまさにこういったことが問われていました。

1年目である今年度は、多くの研究科と協力して、様々な講義を開講しました。来年度からは、コース生が自分に必要な知識を得るためにとるべき講義がどれか分かりやすいように改善します。講義の体系化を図り、「制度・政策」「経済・マネジメント」「情報科学技術」「社会先導力」「価値創造力」の5分類を設け、履修のモデルを提示していきます。また、ワークショップなども連携させて、より密度の高い講義を提供します。2年次に上がった学生にも、再度履修してほしいくらいの改善を行う予定です。

GCLコース生には、自ら社会を変革していくという意識、自分の専門を活かして社会をどう変えていくのかという意識を持ってほしいと考えています。GCLの幅広いカリキュラムの全体を俯瞰し、自分の問題意識がどこにあるのかを探してみてください。まだまだGCLには活用しきれていないリソースがたくさんあり、今後体系化して分かりやすく提示していくつもりではありますが、ぜひ自分から積極的に工夫して活用してほしいと思います。

（聞き手：金子和正、森友亮 撮影：須原宜史）



人を知り、社会を知る。

浅見徹教授 インタビュー (プロジェクトインキュベーション機構長)

プロジェクトインキュベーション機構の役割は GCL コース生と社会とのパイプを構築することです。学生が入手できる企業情報は限られていますので、学生と企業などが連携してソーシャルイノベーションプロジェクトを進められるようなマッチメイキングをひとつの大きなミッションとしています。

そのために出会いの場とし Global Design Tech Talk と称して、数多くのセミナーを開催しています。セミナーに参加することの意義は、大きく二つあります。一つは、今まであまり関心のなかったテーマであっても、その問題や、今後の展望などについて、簡単に幅広い知識を得られることです。そのとき関心が無かったテーマであっても、将来必ずどこかで学んだ知識が役立つはずで。もう一つ大切なのは、講演者とつながりを持つことで、新しいコラボレーションが生まれることです。つながりを作るには、講演が終わったあとに講演者の方に個人的に質問に行き、連絡先を交換する、といったことが必要です。来年度からは、年間スケジュールをたてた上でテーマを設け、セミナーを開催していく予定なので、GCL のコース生には、ぜひ積極的にセミナーに参加することを期待しています。

また、インターンシップに参加し、業界の前線で何が起きているのかを知ることも重要です。長期間、実際の業務に携わることで、どのように仕事が進むのか、その企業やプロジェクトで鍵となる人物が誰なのか、が分かってきます。各学生のテーマに沿ってインターン先を決める GCL では、インターンシップ先を見つけるにあたり、苦労することも多いと思います。個人で受け入れをお願いしても断られることも多いでしょうし、ビザや保険など細かな手続きがたくさんあります。こういったことを経験してもらうために、あえてルールを用意していないので、ぜひたくさん失敗して、それを乗り越えてほしいと思います。

GCL コース生には、5年後、さらにその先を見据えて、こういったセミナー、インターンシップなどで幅広くかつ深い知識を身につけ、人脈を広げてほしいと思います。2020年には東京オリンピックが開催されます。1964年に開催されたときには、高速道路や新幹線、衛星テレビ、海底ケーブルなど様々なテクノロジーによって世の中が大きく変わりました。次のオリンピックまでに ICT でどんなことができるか、GCL コース生の活躍に期待しています。

(聞き手：金子和正、須原宜史 撮影：須原宜史)

■ GCL 年間スケジュール

● 2014年3月

12日(水): 第1回GCL募集説明会
15日(土): GDWS 報告会
17日(月)～20日(木):
第1回GCL生申し込み提出期間
31日(月): 第1回GCL生採否通知

● 2014年4月

3日(木)～8日(火):
第2回GCL生申し込み提出期間
6日(日): 第2回GCL募集説明会
7日(月): 夏学期授業開始
10日(木):
GCL TA ガイダンス, 第1回GCL学生交流会
11日(金):
GCL インターンシップ・ガイダンス(教員向け)
12日(土): 開校記念日
14日(月): 第2回採否通知
下旬: GCL キックオフシンポジウム
末日: 英語クラス決定

● 2014年5月

7日(水): GCL TA ガイダンス
上旬: 英語クラス開始
17日(土)～18日(日): 五月祭

● 2014年7月

23日(水)・24日(木):
GCL インターンシップ・ガイダンス(学生向け)
31日(木): 夏学期授業終了

● 2014年9月

19日(金): GCL インターンシップ計画提出
30日(火): 進路ガイダンス

● 2014年10月

1日(水): 冬学期開始
6日(月): GCL インターンシップ採否通知

● 2014年11月

20日(木): 2年次コース生選抜申し込み締め切り
23日(日): GCL プレゼンコンペ
26日(水): 日本学術会議情報
ネットワーク社会基盤分科会のシンポジウム

● 2014年12月

8日(月): 2年次コース生決定
16日(火):
GCL コース生3年次(博士)編入募集説明会

● 2015年1月

6日(火): GCL コース生3年次(博士)編入募集
9日(金)・10日(土): リーディングフォーラム

● 2015年3月

11日(水): 第1回GCL募集説明会
14日(土): GDWS 報告会
16日(月)～19日(木):
第1回GCL生申し込み提出期間
30日(月): 第1回GCL生採否通知

※スケジュールは変更になる可能性があります。
最新の情報はHPをご覧ください。

GCL Newsletter の Web 公開を開始しました！
最新号はもちろん、これまでのバックナンバーもご
います。見逃した方も是非ご覧ください。
<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/gclnewsletter/>

編集・発行:

情報理工学系研究科・GCL 広報企画
(森友亮(情報理工 M2)、後藤昂彦(情報理工 M1)、金子和正(工 B3)、須原宜史(工学系 D2))
〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部 8号館 621号室 GCL 事務局
E-mail: pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp